

釧路ベイロータリークラブ会報

会長方針

「ロータリーを語り合ひましょう、そして積極的に参画しましょう」

2025-2026年度 第2回(通算第1255回)
プログラム『母子の健康月間例会』

■日時:令和7年7月15日(火)18時30分～ ■例会場:アクア・ボールくしろ

【会長】森 圭一郎 【副会長】貝嶋 政治 【幹事】平野 知子

■ 点 鐘

森 圭一郎会長



■ ローターソング『我等の生業』

ソングリーダー 貝嶋 政治君

■ 会長挨拶

森 圭一郎会長



皆さんこんばんは。先週は第7分区平澤ガバナー補佐様始め市内各クラブ会長幹事様をお迎えしての表敬訪問例会でした。クラブの新年度1回目の例会という事もあり、大変緊張感のある例会でしたが、新入会員の漆崎要会員もお迎えする事が出来、ベイクラブとして新たな一步を踏み出す事が出

来ました。表敬訪問は7月12日(土)の釧路北ローターアクトクラブの例会をもって全て終了いたしました。平野幹事、美馬副幹事のご協力のもとスケジュールを管理していただき無事終了されたことに、改めて感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。さて、今日は母子の健康月間例会です。当クラブとしては、2017～2018年度にタイ3330地区のクラブビという地区に、グローバル補助金を活用した母子の健康部門において、タイの地元クラブや2500地区、そして当クラブ葎本会員が中心となって病院に分娩台と保育器を寄贈され、例会でも報告をされております。また昨年度より2500地区に母子の健康増進委員会が設置され、昨年度は各分区内に於いて知識の貧困という面から中学生、高校生を対象に「性感染症と避妊の大切さ」と題して釧路東高校で小谷ガバナーより講話、経済的に生理用品を購入できないとの事から「生理用ナプキンの配布」を当分区は当クラブから地区委員に排出されております平野会員が釧路市教育委員会、

釧路東高校にそれぞれ生理用ナプキンの寄付をしております。因みに同様の活動は、インドやタンザニアでもロータリーを通しての活動として行われているとの事で、そちらについてはロータリーの友7月号、マイロータリーを参照していただければと思います。今年度についても地区小田委員長が引き続き継続事業として続けていくとのことです。クラブとしても引き続き平野会員が地区の委員会メンバーとして取り組んでいくとのことです。会員皆さままで平野委員を応援していただきます様宜しくお願い致します。本日は奉仕プロジェクト委員会担当の例会となります。植原委員長に宜しくお願い申し上げます。本年度第2回例会の会長挨拶とさせていただきます。本日より宜しくお願い致します、ありがとうございました。

■ 幹事報告



平野 知子幹事
皆さま、こんばんは。
本日の幹事報告は
6点です。

① 会員証をボックスに入れてありますので忘れずにお持ち帰り下さい。

② 7月3日の小平

会員のお父様の葬儀並びに7月15日の鈴木会員のお母様の葬儀に際しまして、クラブより細則に準じまして香典と供花を送らせていただいております。

③米山記念奨学会よりハイライトよねやま並びに功労クラブ表彰の感謝状が届いております。

④助成公益法人の一覧が掲載されているガイドブックが届いております。ボックスの上に置かせていただきますのでご確認く

ださい。

⑤9月13日(土)白糠ロータリークラブ・音更ロータリークラブと3クラブ合同例会を予定しております。詳細は決まり次第皆様にご案内いたしますので、ご参加のほどよろしくお願い致します。

⑥8月の例会プログラムのご案内に『フードロスなくそう!』ということで、例会出席のFAX送信後に出席から欠席・欠席から出席へと変更が生じた際には直接幹事までご連絡をお願い致しますと記載しておりますので皆様のご協力をお願いいたします。

幹事報告は以上です。



■ 委員会報告

母子の健康増進委員会 平野知子委員
7/12に帯広で今年度1回目の委員会が開催され出席してきました。地区補助金が昨年度は150万円

円で今年度は135万円となりましたが、今年度も昨年度と同様にパストガバナーの性感染症の講演会と寄贈を行っていきことになりました事をご報告させていただきます。



小平会員より
小平会員お父様の葬儀に関してのご挨拶

します。接種するワクチンや年齢によって、接種のタイミングや回数が異なります。世界保健機関(WHO)が HPV ワクチンの接種を推奨しており、2024 年1月時点では、130 か国以上で公的な予防接種が行われています。カナダ、オーストラリアなどの接種率は8割以上です。日本は 22%にとどまっております。HPV ワクチン接種後の主な副反応としては3種類のワクチンともに、このようにいろいろありますが重篤なものは少ないです。しかし2013年に副反応がマスコミで大々的に報じられたため、厚生労働省の通知により令和3(2021)年の、HPV ワクチンの接種を個別にお勧めする取組が差し控えられていました。令和3(2021)年 11 月の専門家の会議で、安全性について特段の懸念が認められないことがあらためて確認され、接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められたことから、個別に接種をお勧めする取組を再開することになりました。HPV ワクチンの公費での接種機会を逃した方に、公平な接種機会を確保する観点から、定期接種の対象年齢(小学校6年~高校1年相当)を超えて、あらためて公費での接種の機会を提供していた。HPV(ヒトパピローマウイルス)は「子宮頸(けい)がんの原因で女性が注意すべきウイルス」と思っているのではないのでしょうか。実は、HPV は口の奥(中咽頭)のがんも引き起こすのです。しかも、男性の患者が多いのが特徴です。この HPV が原因となる中咽頭がんが急増しています。HPV と中咽頭がんの関係、そのがんの特徴、患者数の状況や予防方法について解説します。中咽頭は、口の奥の上にある柔らかいところ「軟口蓋(なんこうがい)」、舌の付け根「舌根(ぜっこん)」、横の壁のリンパ

球が集まる「口蓋扁桃(こうがいへんとう)」を含む部分です。ここにできるのが中咽頭がん、のどの違和感、長く続くのどの痛み、飲み込みにくさ、ものを飲み込む時の痛み、のどからの出血、首のしこりなどの症状が出ます。日本全体では現在、1 年間に約 5000 人があらたに中咽頭がんの診断を受けており、男女共に明らかな増加傾向にあります。大阪大学のチームが大阪府がん登録のデータをもとに調べたところ、10 万人当たりの中咽頭がんの罹患数(年齢調整罹患率)は、1990 年に男性が 1.2 人で、女性が 0.2 人でした。それが 2015 年には男性が 2.5 倍の 10 万人当たり 3.0 人、女性が 3 倍の同 0.6 人にまで急増していることが分かりました。原因は HPV 感染と喫煙・飲酒に大別でき、それぞれに特徴があります。HPV 関連の場合、舌根や扁桃の小さなくぼみ「陰窩(いんか)」にウイルスが侵入してその上皮(表面部分の組織)にがんが発生します。喫煙・飲酒が原因で起きる中咽頭がんは目視でも比較的判別しやすいのですが、HPV によって生じた中咽頭がんは、小さな陰窩の奥で最初に発生することや、がん自体の小ささから、初期の段階では見つけにくいのです。よって HPV 関連中咽頭がんは早期発見が困難ながんとして知られています。喫煙・飲酒が原因の中咽頭がんは通常 50 代以降に発生するのですが、HPV 関連の場合、40 代などの比較的若い世代にも発生することが特徴です。また喫煙・飲酒が原因の場合、食道がんなどを併発することが多いのに対し、HPV 関連中咽頭がんでは他のがんが重複することがほとんどありません。一方で HPV 関連中咽頭がんは喫煙・飲酒が原因の中咽頭がんより首のリンパ節へ転移しやすい——など

の違いがあります。HPV 関連中咽頭がんの予防には HPV ワクチンの接種が有効と考えられています。HPV ワクチンというと、女性が対象だと思う人もいるでしょう。しかし、ワクチンはウイルスの感染を防ぐ効果がありますから、男性が HPV ワクチンを接種することで、自身にも発生しうる中咽頭がんなどの HPV 関連がんを防ぐことができます。また男性から女性に HPV を感染させるリスクを減らすこともできます。

実際に海外の先進国では HPV ワクチンは男女共に定期接種になっています。中でもオーストラリア、カナダ、イギリスは 10 歳前後の子供を対象に学校での集団接種を実施しています。このため、2022 年 8 月時点の接種率(完遂率)は▽オーストラリア(定期接種対象は 12~13 歳の男女) = 女子 81.8%、男子 78.8%▽カナダ(同 9~13 歳の男女) = 女子 87%、男子 73%▽イギリス(同 12~13 歳の男女) = 女子 82.8%、男子 77.5%——と非常に高いのです。オーストラリアやイギリスからは定期接種開始後、HPV 感染率や子宮頸がんの発生率が減少したことが報告されています。

アメリカやフランス、ドイツは医療機関での定期接種を実施しています。22 年 8 月時点の接種率は、アメリカ(対象は 11~12 歳の男女) = 女子 61.4%、男子 56.0%▽フランス(同 11~14 歳の男女) = 女子 37.4%、男子はデータなし▽ドイツ(同 9~14 歳の男女) = 女子 47.2%、男子 5.1%——です。一方、日本は定期接種の対象が 12~16 歳の女子のみで、接種率はわずか 7.1%しかありません。各国の接種率はご覧になっていただくと日本がダントツで低いのがわかります。HPV 関連中咽頭がんの患者の多くが感染し

ている 16 型の感染リスクを全体で約 75% 減少させられるといえます。接種率 80%を男女共に維持できると、16 型の感染減少率はほぼ 100%に達し、ウイルスの撲滅が可能になると考えられています。米国で男女ともワクチン接種をまったく実施しない状態を続けると、2030 年ごろから男性 10 万人あたりの中咽頭がん罹患数は 10 人程度になるといいます。これが現状の HPV ワクチン接種率、女性約 60%、男性約 50%を維持すると、2100 年には 10 万人当たり 4~5 人に減少させることができると予測しています。接種率が増加すれば、さらに中咽頭がんの発生率が減少することも予測されています。同様に日本国内でも今から男女共にワクチン接種率を上げていけば、やがては中咽頭がん発生率減少の効果が現れ始めると考えられます。逆に言えば、今から対処しなければ将来の子供や孫の世代に禍根を残しかねません。ワクチンは治療薬ではありません。すでに HPV に感染してしまった細胞から HPV を排除する効果は期待できません。つまり感染する前の若い世代がワクチンを接種し、HPV 感染を防ぐことで効果が得られるのです。そして、早期発見が難しい HPV 関連中咽頭がんは、ワクチンによる予防が特に重要だといえます。日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会は、関連学会と共に HPV ワクチンの男性への定期接種化を国に要望しています。子供の世代、孫の世代になって、日本が世界から取り残され、“いまだに HPV 関連がんを撲滅できていない国”にならないようにするには、今からの取り組みが必要なのです。



釧路バドミントンクラブ 出席委員会

在籍会員数	20名	賜暇 / 免除	欠席 / メイクアップ	出席率
今週の出席率	11名	名 / 名	名 / 名	55%
日修正出席率	名	名 / 名	名 / 名	%

会報・雑誌・IT委員長	後藤 義信 : yoshinob510@outlook.com
副委員長	横山 豊 : yokoyama_jiritsu@email.plala.or.jp
今回担当 委員	植原 元晴 : ueharaoto@jeans.ocn.ne.jp
委員	大越 拓也 : takuya.76tsru@gmail.com
委員	美馬 嵩俊 : tm.0919mima@gmail.com
クラブ事務所 釧路市幸町14丁目1-1 ノースコート2階 TEL : (0154) 23-6175 FAX : (0154)23-6213	